

チベット語包座 [Babzo] 方言の音声分析とその方言特徴

鈴木 博之

(京都大学大学院)

Tibetan Babzo [Baozuo] Dialect
Phonetic and Dialectological Analysis

SUZUKI, Hiroyuki

Kyoto University

This article treats a phonetic analysis and a preliminary dialectological consideration on Babzo dialect, one of the characteristic Tibetan dialects spoken in Songpan, Jiuzhaigou and the eastern area of Ruoergai Counties, Aba Tibetan and Qiang Autonomous Prefecture, Sichuan. Babzo dialect, spoken in Baxi district, the eastern area of Ruoergai, possesses the following dialectological particularities: the register distinction based on the two different phonation types, the special consonant phonemes such as /q^h, q, ɣ, v, ʁ/, the prenasal preceded to the non-aspirated voiceless plosive/affricate initials, the preaspiration which is different from the main initial about the voicedness, simplified vowel correspondence with Written Tibetan forms. Most of these typological characteristics are similar to other Tibetan dialects spoken in Baxi district as Askyirong and Chosrje dialects, but some word forms are especially similar to dialects spoken in Songpan and Jiuzhaigou Counties. The common particularities between Amdo nomadic Tibetan dialects and these dialects are less found.

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1. はじめに | 5.1 単子音 |
| 1.1 若爾蓋県巴西区のチベット語方言 | 5.2 子音連続 |
| 1.2 本稿の構成 | 6. 蔵文との対応関係による Babzo 方言の特徴づけ |
| 2. Babzo 方言の音体系 | 6.1 初頭子音 |
| 2.1 超分節音 | 6.2 母音+音節末形式 |
| 2.2 母音 | 7. 語形式による Babzo 方言の特徴づけ |
| 2.3 子音 | 7.1 特徴的な音素を含む語形式 |
| 2.4 音節構造 | 7.2 語形式自体の特殊性 |
| 3. 超分節音 | 8. まとめ |
| 4. 母音 | |
| 5. 子音 | |

Keywords: Tibetan, phonetics, phonation type, register, dialectology

キーワード: チベット語, 音声学, 発声類型, レジスター, 方言学

1. はじめに

四川省阿壩藏族羌族自治州の北部一帯は、チベットの地域区分ではアムドの一部に分類され、牧畜地帯ではアムドチベット語（もしくはチベット語アムド方言）が通用している。その最北部に位置する若爾蓋県もまた牧畜地域であるけれども、その周辺部にアムドチベット語とは異なるチベット語方言が話されていることが近年の研究によって判明した。それには大きく2種類あって、同県北部鉄布区に分布する方言群と同県東部巴西区に分布する方言群である。後者に属する方言について言語学的な立場からはじめて明確に非アムドチベット語であるという意見を提示したのは孫天心（2003）で、その方言は多くの点で従来知られていたいずれのチベット語方言とも異なる際立ったものであると分析している。

本稿で扱うのは、この巴西区に分布するチベット語方言群のものである。

1.1 若爾蓋県巴西区のチベット語方言

若爾蓋 [mDzod-dge]¹⁾ 県巴西 [dPal-skyid] 区は、豊かに森林に覆われたゆるやかな山地が大部分を占め、遊牧には適さず牧畜業よりも農業が多く行われている。この地域のチベット語はいわゆるアムドチベット語²⁾ とは多くの異なる音声特徴を持っている。同区の各郷（巴西 [dPal-skyid] 郷、阿西茸 [A-skyid-rong] 郷、求吉 [Chos-rje] 郷、包座 [Bab-bzo] 郷）における方言は音声面についてそれぞれ少しずつ異なっている。また、これらの方言は若爾蓋県に東接する九寨溝 [gZi-rtsa sDe-dgu] 県³⁾ 大録 [sTag-lo] 郷、黒河郷などで用いられる方言によく似た特徴を持ち、俯瞰的に見れば、これらはまとめてアムドチベット語とは異なる方言群を形成しているといえる。その中で孫天心（2003）は巴西区で用いられる方言として求吉郷で話される Chosrje 方言を分析しているけれども、その他各郷の方言との具体的な異なりについては触れられていない。また、阿西茸郷の Askyirong 方言の音声分析が Suzuki (2005a) に行われている。

巴西区をはじめ、阿壩州の北東部に位置する地域で話されているチベット語方言は、従来十分な調査がなされていなかったことから、より古い先行研究において示されている下位区分についての見解は十分な説得力がない⁴⁾。筆者は最近鈴木（2006）によって提出された方言分類を踏襲し、阿壩州の北東部に分布する一連の土着のチベット語方言を「ヒャルチベット語」という方言群にまとめ、巴西区の方言もここに分類されるという見解を取る⁵⁾。確かに、方言の

1) 地名など漢字による音写のなされる固有名詞には、[] 内にチベット文語形式（藏文）を添える。

2) 若爾蓋県で話されるアムドチベット語の1方言（轄曼郷河拉村）の音体系は Sun (1986) が詳しく記述している。

3) 旧称は南坪 [rNam-'phel] 県で、今なおこの名称が使われることがある。

4) それゆえに、ここでは該当する先行研究の意見について触れないでおく。

5) ヒャルチベット語の詳細な分布地域は、若爾蓋県東部および同地に接する松潘県と九寨溝県である。この方言群を特徴づける音声面の現象は、ピッチに基づく声調の弁別を持たずレジスターという超分節音素を持ち、初頭子音連続が多数見られるものである。この点は本稿の分析でも述べる。先行研究では、ピッチによる声調に注目した分析がなされているものもある (Nagano (1980) や華侃・宗藏他 (1997), Sun (2003a) など)。

なお、相互理解度という観点から考えると、筆者の調査・観察によれば、アムドチベット語話者とヒャルチベット語話者は基本的に相互理解が困難であるといえる。若爾蓋県の場合、アムドチベット語が社会的上位言語ととらえられ、ヒャルチベット語話者は必要に応じてアムドチベット語を身につけている。アムドチベット語話者は基本的にヒャルチベット語を理解しない。

系統をめぐってこれらの非アムドチベット語がチベット語史あるいは方言学上の分類においてどのような位置を占めるのかは極めて重大な問題であるけれども、それとともにこの種の方言の記述を提出しその類型特徴について考察を加えることもまた重要な課題である。

1.2 本稿の構成

本稿の目的は、若爾蓋県巴西区包座郷で話される Babzo 方言の音体系を記述し、その特徴を分析することにある。包座郷の方言は、先行研究において具体的な言語事実が記述されたことがないものであることから、まず音体系全体を提示し、次に超分節音、母音、子音と分けて考察し、具体例を提示していく。そして蔵文との対応関係を分析し、適宜アムドチベット語やその他のヒャルチベット語の形式も参照して方言特徴を指摘する。また、蔵文に合わない語形式の特徴を周辺のチベット語方言と対比しつつ説明を加える。

なお、この方言は、孫天心（2003）の指摘にもあるように、他の巴西区の郷の方言と音声面についてやや大きな異なりが見られる。このことは巴西区の土着のチベット人に共有される、母語に対する印象でもある。そのため、同論文に指摘される特徴を参考にしつつ Babzo 方言の特徴づけを試みる。

本稿の議論において用いる方言資料は、先行研究を指示する場合を除き、筆者の現地調査で得られた一次資料を用いる。Babzo 方言についての調査協力者はドゥンドゥ [‘Brul-’brul] さん（男性）で、若爾蓋県包座郷長薩村出身である。資料収集のための現地調査は2004年から2006年にかけて行った。

2. Babzo 方言の音体系

2.1 超分節音

レジスターすなわち緊張性（°で示す）と弛緩性（無標）の2項対立が認められる。

2.2 母音

長母音、鼻母音および緊喉音も確認される。

i	u	ɯ	u
e	ɵə	o	
ɛ		ɔ	
a	ɑ		

2.3 子音

子音連続の構成要素としてのみ現れるものも含めた一覧

		両唇	歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	声門
閉鎖音	無声有気	p ^h	t ^h	t ^h		k ^h	q ^h	
	無声無気	p	t	t	c	k	q	ʔ
	有声	b	d	d	ɟ	g	g	
破擦音	無声有気		ts ^h		tɕ ^h			
	無声無気		ts		tɕ			
	有声		dz		dʒ			
摩擦音	無声有気		s ^h		ɕ ^h /ç ^h	x ^h		
	無声	ɸ	s	ʃ	ç/ç	x		h
	有声	v	z, ʒ		ʒ	ɣ	ʁ	ʕ/fi
鼻音	有声	m	n		ɳ	ŋ		
流音	有声		l	r				
	無声		ɭ					
半母音	有声	w			j			

2.4 音節構造

音節構造の設定は、鈴木（2005a）を参照して以下のように記述できる。

^cC_iGVC

このうち C_i（主子音）と V（音節核の母音）が必須である。

3. 超分節音

Babzo 方言をはじめ巴西区の方言群を最も特徴づけるものとして、レジスターによる対立をあげることができる。レジスターとは、音節全体に見られる喉頭筋肉の作用による声帯の緊張に関する発声上の異なりで、緊張と弛緩の2種類に分かれる。それぞれが持つ音声学的な特徴は以下のようである。

1. 緊張レジスター：高ピッチ，緊喉音
2. 弛緩レジスター：低ピッチ，息漏れ音

緊張レジスターは音節初頭から、すなわち子音の調音時から明瞭に現れ、音節核である母音の聴覚印象に若干のきしみ音が伴うような音声実態に特徴づけられる。このため、いわゆる緊喉母音とは異なる性格を持っている⁶⁾。筆者の観察では、Babzo 方言は以上に示した音声学的特徴のうち、全てが同時に音声実現に反映される必要はない。

筆者は緊張レジスターを有標とし、語頭に°を加えて表すものとする。そして、高ピッチ、

6) レジスターと呼ぶものの音声学的特徴については、より詳細な音声学的記述を含む分析を鈴木（2005b）や Suzuki（2005b）が Sharkhog 方言について行って、その記述と Babzo 方言の事例との間に大きな差はない。Askyirong 方言の場合もほぼ同様の音声学的特徴が現れる。

緊喉音などの特徴が決して現れない場合は弛緩レジスターに分類し、そのことは特に記述せず、無標とする。レジスターの差異が対立において重要な役割を果たしていると思われる例には、以下のようなものがあげられる。

含まれる分節音	緊張レジスター	弛緩レジスター
ŋa	^o ŋa「私」	ŋa「5」
no:	^o no: ni ni:「毎日」	no:「雨」
luʔ	^o luʔ「羊」	luʔ「ひつじ年」

上の3段目の例は同一の「羊」という形態素でありながら、レジスターの差異によって語義が弁別されている。

レジスターはほとんどの事例において語単位で現れると分析できる。というのは、語の初頭音節が以上に述べた明確な音声的特徴を見せるのに対し、第2音節以降はあまり明確にならず、緊喉音は聞かれず高ピッチで現れることが多数を占めることから、レジスターが明確に指定されるのは語の第1音節であると考えられる。ただし、同一形態素であっても、単音節で語となる場合と複音節語の第1音節に来る場合とでは、後者に緊張レジスターの音声学的特徴が厳密に音声実態に反映されなくなって、弛緩レジスターに分類されるものもある。たとえば、以下のような例がある。

含まれる形態素	緊張レジスター	弛緩レジスター
x ^h a: (「ぶた」の意)	^o x ^h a:「ぶた」	x ^h a: mu「めすぶた」
s ^h a (「土」の意)	^o s ^h a「土」	s ^h a ^h ko「場所」

「ぶた」「土」それぞれの語の発音は、明瞭な緊喉性が確認できるが、「めすぶた」「場所」の第1音節には緊張レジスターの特徴は見られず、高声調や緊喉性を持った発音が異質であると判断される。

以上に見られるレジスターをめぐる現象は、通時的な考察が必要であると考えられる。その原因となるようなものには、たとえばレジスターによる対立の摩滅傾向や借用語の層の異なりなどが挙げられるだろう。筆者は同一形態素でレジスターに差異が見られたり、形態素の現れる位置でレジスターに差異が見られたりすることを理由に、レジスターそのものが弁別的でない結論づける分析には賛同しない。現在の Babzo 方言に観察される現象で母語話者が語義弁別をしていると判断する要素であるため、記述に反映させる必要があると考える。

4. 母音

母音には長短の区別が確認され、弁別的であると考えられる。鼻母音は語中において鼻音に先行するときによく現れるほか、いくつかの語で鼻母音と鼻音化していない長母音との交替を見せるなど、不安定ではあるが存在する。本稿では、鼻音化した母音として現れる例には鼻母音の符号 $\tilde{}$ を用いて記述する。

以下に母音の長短のみに着目して具体例を掲げる。

	通常母音例		長母音例	
i	^o mi ja	霧	ɲi:	銀
e	^o ze ja	露	^o ne:	火
ɛ	dɛ	裁断する	t ^h jɛ:	草木灰
a	^o s ^h a	土	^h tsa: jɛ	布団
u	^h sa ŋa	よい	na: ŋɔ	天
ɔ	no fia	沼	^h ɕɔ:	がけ
o	^o do wa	煙	^h ko: ^h ma	めす馬
u	^o ʂuʔ	命	ru: ^h tu	谷
u	^o tɕ ^h tu	水	^o k ^h tu:	針
ə	nə	人	^o rə ^h pə:	引っ越す
ɯ	^o zi dɯ	鳥	^o tɕu:	搾り出す
ø	rə mø	絵	^h ŋø: ma	たてがみ

5. 子音

子音は、単子音および子音連続に分けて具体例を挙げつつ考察する。

5.1 単子音

単子音の具体例は、可能な限り2例ずつ挙げる。

5.1.1 閉鎖音・破擦音

Babzo 方言には硬口蓋閉鎖音の系列と口蓋垂閉鎖音の系列が存在する。ただし /g/ については単子音として存在しない。

	例語	語義	例語	語義
p ^h	^o p ^h ə ^h ma	ぬか	p ^h o te	腹
p	puw za	息子	pə ^m ba	宝瓶
b	^o ba ɕō	クモ	^o beʔ	チベット人
t ^h	^o t ^h a ^h ge	外側	t ^h o ri:	明日
t	^o to wa:	穀物		
d	^o de ri:	今日	^o də	彼
t ^h	^o t ^h ɑʔ	血	t ^h ɛ fia	税金
t	tɑ: bu	本		
ɖ	quʔ	6	^o ɖa roʔ	叫ぶ
c	ci yi: ^h te	振る		
ʃ	ɕ ^h o: jo	紙	jo gwa	1寸
k ^h	^o k ^h a da:	カタ	k ^h ɑʔ	箸
k	kuw	曲がる	ko ru	白菜
g	^o go: di	子ぶた	^o ge:	隠れる
q ^h	q ^h ɑ:	雪	q ^h a ⁿ de	苦い
q	qə	刺繍する		

ʔ	ʔa ^h ga	ロバ	ʔa ^h yo:	おじ
ts ^h	°ts ^h a	塩	°ts ^h o wa:	商人
ts	tsə ^h ʔə ^h re ^h fiu	中指		
dz	°kɛ: dzi:	脊椎		
tɕ ^h	°tɕ ^h u ra	チーズ	°tɕ ^h u	水
tɕ	tɕe ze	娘婿	°tɕe	ふさぐ
dz	°dza:	強盗	dza ma	強盗

5.1.2 摩擦音

Babzo 方言は摩擦音に有気，無気，有声の3系列を有し，かつ /ɸ, v, ʃ, ç/ といった特徴的な音素が認められる。ただし /ɸ/ については単子音として存在せず，/ʃ/ は音節末子音としてのみ現れる。

	例語	語義	例語	語義
v	°se: vo	硫黄	°tɕa: vo	王
s ^h	s ^h a ʔo:	種	°s ^h o: wa	新しい
s	°se: vo	硫黄	sa sa	歪んだ
z	°zoʃ	牛	zo ra	鎌
ʃ	°ja ra ʃa	取る		
ɕ ^h	ɕ ^h e:	屁	q ^h a ɕ ^h aʔ	からい
ç	çu zo	後	°çe: ʔa	生の
ʒ	°zu wa	ねずみ	°zaʔ	ヤク
ʂ ^h	°ʂ ^h ə ma	豆		
ʃ	°ʃe do:	たち	°ʃe:	雲
ɕ ^h	ɕ ^h e ^h tɕi:	筋肉	ɕ ^h iʔ	しらみ
ç	ça ne	兄	çu ^m be	皮
x ^h	°x ^h a:	ぶた	°çe: no: x ^h o de	陥没する
x	°xo:	靴		
ʎ	ʎa	狐	ʎi	消化する
ʝ	t ^h a ʝa:	吊りベルト		
ʧ	reʧ reʧ	触れる	°p ^h aʧ	投げる
h	ha jɔ:	アルミ	hu da:	しゃもじ
fi	°fi ^h ə fio	細い	fiəʔ	光

5.1.3 共鳴音

Babzo 方言の共鳴音は /j/ を除いて無声音系列が存在しない。

	例語	語義	例語	語義
m	°me doʃ	花	ma:	バター
n	nā lo	葉	na: ʔo	天
ŋ	°ne:	火	nə	人

ŋ	˚ŋa ma	尾	˚ŋa	私
l	˚lo:	道	lo ˚za:	新年
ʃ	˚ʃa	神	˚ʃo ˚hʃoʔ	南
r	ra	山羊	ro:	農区
j	˚ja ne	鉛	˚jeʃ	破れる
w	˚ʃi wa	通り	wo ma	乳

5.2 子音連続

Babzo 方言に見られる子音連続の組み合わせは比較的多いが、その組み合わせには一定のパターンが見られるため、先にいくつかの基準に沿って分類する。

わたり音を含まないものを考えると、子音連続は例外的なものを除き、最初頭子音^Cと主子音^{C_i}の間の組み合わせについて最初頭子音の性質を以下のように特徴づけることができる⁷⁾。

調音特徴	前鼻音	前気音		両唇音	
		強勢	弱勢	強勢	弱勢
鼻腔開放	+	-	-	-	-
声帯振動	後方一致	-	+	-	+
両唇化	-	-	-	+	+

ここで、前気音および両唇音の強勢/弱勢と呼ぶものは、声帯振動を抑制する筋肉が強く働くかどうかの異なりで、fortis/lenisによる対立と考える。たとえば、^hka:「つらい」と^hka za「好き」などが挙げられる。これは最初頭子音の調音に関して、声帯振動を抑制する筋肉が強く働いているものを強勢すなわち fortis と解釈し、抑制する筋肉が十分に働いていないものを弱勢すなわち lenis と解釈する。これは声帯そのものの緊張とは異なっているため、レジスターの緊張性とは独立して現れる。よって、lenis タイプの子音連続では、主子音^{C_i}の音価は入りわたりが無声化有声音（半有声音）で、出わたりが完全な無声音になる。また、両唇音は無声の場合接近音に近い摩擦音^ʃで現れることが多く、有声の場合は半母音^wで現れる。また閉鎖音^pで実現されるものも確認される。

このような差異は前鼻音には見られないが、前鼻音の調音は鼻腔共鳴に特徴づけられるものであって、前鼻音部が直接声帯振動に関わっていないからである。

以上の子音連続の組み合わせとは独立して、わたり音^Gが現れる。よって、最大で以上に示した組み合わせとわたり音を初頭子音群に含むことができる。

5.2.1 前鼻音

有声音に先行するもの

^m b	: ^m buu	虫
ⁿ d	: ⁿ doʔ	色
ⁿ ɖ	: ⁿ ɖoʔ	牧区
^ŋ g	: ^ŋ go	頭

7) これは Suzuki (2005a) の Askyirong 方言の分析を参考に、Babzo 方言にあうように修正したものである。

^N G	: s ^h ɔ̃ ^N Ge	ライオン
ⁿ dz	: ⁿ dzuu ^γ u	指
ⁿ dz	: ta ⁿ dzɑ:	茶の寄付
ⁿ z	: ⁿ zɑ:	朝
ⁿ ɣ	: na ⁿ ɣe:	聾啞者
ⁿ j	: °çi: ⁿ ja	松

無声有気音に先行するもの

^ɸ p ^h	: ^ɸ p ^h a ^{ra}	ジャッカル
^ɸ t ^h	: ^ɸ t ^h o ^h po	高い
^ɸ l ^h	: ^ɸ l ^h ə ^γ u	ほくろ
^ɸ k ^h	: ^ɸ k ^h a ^h pa	腎臓
^ɸ ts ^h	: ^ɸ ts ^h o	湖
^ɸ tɕ ^h	: ^ɸ tɕ ^h ɔ̃ ^m ba	肝臓
^ɸ ç ^h	: ^ɸ ç ^h i:	拭く

無声無気音に先行するもの

^ɸ p	: ^ɸ puʔ	吹く
^ɸ t	: ^ɸ taʔ	境界
^ɸ l	: ^ɸ lɯwʔ	雷
^ɸ k	: ^ɸ ka: ra	鍛冶屋
^ɸ ts	: ^ɸ tso mə	ゾ
^ɸ tɕ	: ^ɸ tɕuɿ ^h ta	ブーツ
^ɸ ç	: ^ɸ ça ts ^h ɛ	虹

5.2.2 前気音

有声性の一致するもの

^h p	: ^h pɔ:	草原
^h t	: ^h ta	馬
^h k	: ^h keʔ	声
^h ts	: ^h tsa	筋肉
^h tɕ	: ^h tɕeʔ	鉄
^h s ^h	: ^h s ^h e:	おす馬
^h s	: ^h soʔ ^h po	生きている
^h ç ^h	: do ^h ç ^h oʔ	方角
^h ç	: ^h çɔ:	がけ
^h ç	: ^h çɔ: pa	羽
^h l	: ^h lɛ: ba	脳

^h b	: ^o bi: ma	乳牛
^h d	: ^o deʔ t ^h a	剃る
^h ɖ	: ^o ɖa:	備中
^h j	: ^h ja ^o go	帽子
^h g	: ^h gu: dza	昼食
^h dz	: ^h dza: mə	けんかする
^h dz̥	: ^h dz̥ə ^h po	熱い
^h v	: ^h va ^h mu	爪
^h z	: ^o zə	ジャスパー
^h ʃ	: p ^h u ^h ʃe	間違う
^h ʒ	: ^o ʒu ru	珊瑚
^h m	: ^h ci ^h mə	酸っぱい
^h n	: ^h na:	耳
^h ɳ	: ^o ɳiʔ	目
^h ŋ	: ^o ŋĩ naʔ	汗
^h l	: ^o la pa	蒸気
^h r	: ^h ri:	搓る
^h j	: ^o jo: ^h gə ze	左

有声性の一致しないもの

^h t	: ^o to	石
^h ʈ	: ^h ʈa: ^h tsə s ^h ə ^h ɳə	仇
^h c	: ^h ca: gə	背
^h k	: ^h ke: dzi:	脊椎骨
^h ts	: ^h tsa ^h ka	月
^h tɕ	: ^o tɕu ma	腸
^h s	: ^h so wa	仕立て屋
^h ç	: ^h çə	4
^h m	: ^h mə ^h ba	医者
^h n	: ^h nɔ:	存在する
^h ɳ	: ^h ɳi ^h mə	軟らかい
^h ŋ	: ^h ŋə zo	前

5.2.3 先行子音が両唇音

このタイプは例が少数であるため、子音連続間の有声性について分類を行っていない。

^p t	: ^o to	ついばむ
^p ʈ	: ^p ʈə	粉末にする
^p ts ^h	: ^o ts ^h aʔ	ふるいにかける
^p ts	: ^o tse:	煮る

$^p\zeta^h$: $^p\zeta^ha$	肉体
$^{\phi}t^h$: $^{\phi}t^h\theta fio$	細い
$^{\phi}t$: $^{\phi}t_i$	書く
$^{\phi}k$: $^{\phi}ka bo$	命令
$^{\phi}ts$: $^{\phi}tsu? po$	強制する
$^{\phi}t\zeta$: $^{\phi}t\zeta i$	洗う
$^{\phi}s$: $^{\phi}si: \zeta^ha ra?$	涼しい
$^{\phi}\zeta^h$: $^{\phi}\zeta^he$	小麦粉
$^w\mathfrak{d}$: $^w\mathfrak{d}\alpha?$	岩
wk	: wko	分かち合う
wte	: $^wte\alpha?$	挙げる
$^w\mathfrak{b}$: $^w\mathfrak{b}a$	太もも
$^w\zeta$: $^w\zeta e$	搾る
wl	: wle	引いてくる
wr	: $^wri:$	蛇

5.2.4 わたり音を含むもの

わたり音には /w/ と /j/ がある。組み合わせの種類は豊富であるが、いずれの組み合わせも見られる語が少ない。

/w/ のもの

t^hw	: $ma t^hwa$	砂糖
t^hw	: $mo: t^hwa:$	蒸し器
q^w	: $q^w\alpha mu$	おもての
k^hw	: $^{\circ}k^hwa: d\zeta a^h k\bar{a}^m bu$	こうもり
g^w	: $d\zeta a g^wa$	キッチン
k^w	: k^wa	たまねぎ
tsw	: $tswa ra$	尻
dz^w	: $^{\circ}\zeta i: dz^w\alpha$	鳥の巣
$t\zeta^hw$: $t\alpha qu?^{\circ}t\zeta^hwa$	穴を開ける
$t\zeta^w$: $^{\circ}ma: z\alpha t\zeta^w\bar{a}^{\circ}to:$	孔雀
$d\zeta^w$: $^{\circ}h\eta i: d\zeta^w\alpha^{\circ}t\zeta e$	いびきをかく
sw	: $swa za$	優待
zw	: $^{\circ}h\zeta^hi zwa: s^he$	出る
\mathfrak{z}^w	: $^{\circ}\mathfrak{z}w\alpha wu$	こじき
ζ^w	: $^{\circ}\zeta wa$	髪
z^w	: $z^w\alpha^h \zeta^ho?$	北
x^w	: $x^wa la$	蠟燭
y^w	: $^{\circ}h\zeta\alpha: y^wa$	トイレ
m^w	: $m^w\bar{a}^{\circ}du\mathfrak{f}$	管家
η^w	: $\eta^w\alpha za$	危険

rw : °tɕ^hu rwe: 渡し場

/j/のもの

bj : °bja 羊毛
 t^hj : t^hje: 草木灰
 tj : lu? tje 群れの羊
 dj : ri: djo 腐る
 gj : gje: 斗
 tɕj : °tɕja za 墓
 dzj : °dzje? t^ha 忘れる
 vj : ri vja ^uto zi 亀
 ɕj : °ɕje: 糊
 zj : °zja? 粉碎する
 ɕj : °ɕje: 鋤
 ɣj : ɣji te k^ha 寺
 mj : mje ^htɕe スコップ
 nj : °nje: 青稞 (裸麦の一種)
 nj : nje: 古い
 rj : p^hu: rja 鳩

5.2.5 3 子音連続

^hkw : ^hkwã ^mbɯ 膀胱
^hkw : ^hkwa ^hso: 三脚架
^hkj : ʔju ^hkja 棒
^htj : °k^ha ^htje 話
^htj : ^htje: クッション
^hgw : go °^hgwə 理解する
^htsw : k^ha ^htswa: 昨日
^hɲj : ^htō ^hɲja: 苦しみ
^mbj : ^mbje: 的
^ʔt^hj : ^ʔt^hje: 引く
^ʔtj : p^hu ^ʔtje 吹き飛ばす
^hk^hw : ^hk^hwa 家
^ugw : nō ^ugwo 1月
^ʔts^hw : ^ʔts^hwa ^hku: 肛門
^htɕw : ^htɕwa ma 柳
^hbj : ^hbje 引き抜く
^hmj : ^hmje: 薬
^ʔʂw : °^ʔʂwe: 耐える

6. 蔵文との対応関係による Babzo 方言の特徴づけ

チベット語方言の特徴づけは、数々の先行研究の存在によって一定の方向性が確立されている。その中で重要な役割を果たすのがチベット文語（蔵文）形式と口語形式の対応関係で、チベット語方言の特徴を分析する伝統的な手法であり、さまざまな研究から一定の注目すべき対応関係の傾向が示されている。そして、この手法によって本稿で扱う Babzo 方言の特徴づけも行うことができる。ただし注目すべき点分析の対象となる方言によって異なってきて、必ずしも先行研究に扱われる通りの特徴を見るだけでは十分でない。

さて、巴西区の方言については、すでに孫天心（2003）や Suzuki（2005a）の分析がある。孫天心（2003）が扱う Chosrje 方言の事例を参考にすると、この方言を特徴づける最も際立つ音的特徴は、初頭子音が単純な構造をしているにもかかわらず声調が存在せず、それに代わる超分節音の音特徴として発声類型による語の弁別が行われている点である。この特徴は、先行研究においてよく知られていたチベット語方言の類型的特徴とは異なったタイプのものであって、孫天心（2003）は方言区分上の問題に発展することにも触れている。また、同論文が注目している蔵文対応形式については他のチベット語方言には見られない特別な点が複数ある。

ここでは、筆者と先行研究との音声分析の異なりが見られるため、孫天心（2003）の注目する特徴を参考にしつつ述べることにして、異同を詳細に論じることはしない。また、筆者の調査した Askyirong 方言の事例も対比的に触れる。Babzo 方言の言語特徴を分かりやすく示すため、初頭子音と母音＋音節末形式の2つに分けて述べる⁸⁾。この考察は通時的な議論を行うのではなく、方言の特徴づけを行うためのいくつかの指標に基づいた対応関係を提示することにある。

6.1 初頭子音

6.1.1 閉鎖・破擦・摩擦音の有声性

閉鎖・破擦音について、蔵文で基字に先行する子音がない有声音字 *g, j, d, b*⁹⁾ は、それぞれの調音点の有声音に対応する。たとえば *°gɔ:*「何」(*gang*), *°dza*「お茶」(*ja*), *°de ri:*「今日」(*de ring*), *°be?*「チベット人」(*bod*) などのようである。

以上の文字に足字がある場合でも同じく有声音に対応する。*°wɔa?*「岩」(*brag*), *də dzo:*「ナイフ」(*gri chung*), などのようである。

摩擦音について、有声音字 *z, zh* も上記と同様基字に先行する子音がない場合は、それぞれの調音点の有声音に対応する。*zɔ̃ ma*「銅」(*zangs*), *°jo*「ヨーグルト」(*zho*) などのようである。

以上の特徴は、巴西区のその他のチベット語方言にも共通である。

さて、以上に触れた蔵文有声音字は、頭字や前接字を伴う形式に対応する口語形式について多くが無声音を含み、完全な有声音として実現しない。たとえば *°to*「石」(*rdo*), *°tɕtu ma*「腸

8) レジスターについても議論することが不可欠ではあるが、蔵文との対応という観点から考えると状況が極めて複雑であり、方言は異なるが Suzuki（2005b）の試みた分析に、レジスターの蔵文との対応関係が複雑であることの一端が示されている。また、巴西区の方言については、孫天心（2003）のいう発声類型の異なりと筆者の言うレジスターの対立は、異なる現象が言及の対象となっていて、より複雑な関係になっている。Babzo 方言についても現段階では明確な蔵文との対応関係を分析できないため、本稿では割愛し、稿を改めて取り上げることにする。

9) 有声音字としては *dz* も含まれるが、*dz* ではじまる蔵文形式に対応する口語形式は得られていない。

(*rgyu ma*), ^hçə「4」(*bzhi*) などのようである。前接字 *b* がつく形式には, ^hçe「搾る」(*bzhos*) などのように初頭子音が両唇音で現れる例もある。頭字や前接字を伴う有声摩擦音字の対応形式で主子音が無声化する現象は Babzo 方言に独自である。

また、閉鎖・破擦音字について、無声無気音字には有声音があたる例、たとえば ^hga:「柱」(*ka ba*) があり、これは Chosrje 方言にも見られる。

以上に示した有声性についての体系的な蔵文との対応は、巴西区の方言群以外には見られない。

また、Babzo 方言では特に複合語第 2 音節にあたる形式の蔵文対応形式が基字に先行する子音字を持たないとき、基字の性質にかかわらず有声化する例がある。たとえば ^hke: dzi:「脊椎」(*sgal tshigs*), ^hja za「ラサ」(*lha sa*) などのようであるが、一律このように有声音として現れるわけではなく、現れる例は固定している。

6.1.2 蔵文 sh, zh, y 対応形式

先に示したように、蔵文 zh には硬口蓋接近音 *j* が対応する。同様に、蔵文 sh には ^hç'a「肉」(*sha*) のように調音点が硬口蓋の無声摩擦音 ^hç^(h) に対応する。この点が Babzo 方言の調音の特徴になる。周辺の方言には軟口蓋摩擦音 ^hx^(h) もしくは前部硬口蓋と軟口蓋の同時調音的な摩擦音 ^hŋ^(h) が現れる。たとえば Askyirong 方言では ^hx^huʃ fia「柏」(*shug pa*) や ^hŋ^ha「肉」(*sha*) のような例がある。さらに zh については、^hja ^hgo「帽子」(*zhwa 'go*) などのように硬口蓋閉鎖音に対応する例もあり、特異な対応を見せている。阿壩州のアムドチベット語では、sh と zh には前部硬口蓋摩擦音で現れるのが通例であるため、異なりが確認できる。

また、蔵文 y について、前接字を伴わない場合は、たとえば ^hja ra「上へ」(*ya ra*) のように /j/ に対応する。しかし *g.y* の場合は、たとえば ^hzaʔ「ヤク」(*g.yag*) や ^hze ^hma「花椒」(*g.yer ma*) のように前部硬口蓋有声摩擦音 /z/ に対応する点が特異であるが、Chosrje 方言と共通する。

6.1.3 蔵文 Py 対応形式

蔵文 Py は、*p*, *ph*, *b* に足字 *y* を伴う形式を含む形式についていう。

Babzo 方言の対応形式は、基本的に前部硬口蓋摩擦音のものである。たとえば、^hç^huʔ ^hpo「裕福な」(*phyug po*), ^hze ma「砂」(*bye ma*), ^hciʔ ^hka「春」(*dpyid ka*), ^hzaʔ ^hka「夏」(*dbyar kha*) などのようである。蔵文 *by* が有声音で対応するのは、先述の有声音の現れる対応関係に適合するが、そうであるならば蔵文 *dby* 対応形式は無声音が期待されるが、実際はそうではない。

前部硬口蓋破擦音を含む ^hç^hu ra「チーズ」(*phyur ba*) は例外的対応であるが、他のチベット語方言には蔵文 Py に前部硬口蓋破擦音に対応するものもあるため、この形式自体が特異ではない。

6.1.4 蔵文 Ky 対応形式

蔵文 Ky は、*k*, *kh*, *g* に足字 *y* を伴う形式を含む全ての対応形式についていう。

Babzo 方言の対応形式は、基本的に前部硬口蓋破擦音であるが、少数ながら硬口蓋閉鎖音に対応する例がある。前者の対応例としては、^htea「漢族」(*rgya*), ^hte^hə ʔə「犬」(*khyi*) などがあり、後者には ^hca: gə「背」(*rgyab*), ^hju「着る」(*gyon*) などがある。

巴西区の方言の場合、Chosrje 方言には硬口蓋閉鎖音が存在せず、そのため前部硬口蓋破擦音に合流している一方、Askyirong 方言では前部硬口蓋閉鎖音 (^ht, t, d) が存在して、これらに対応する。阿壩州のアムドチベット語でも硬口蓋閉鎖音や前部硬口蓋閉鎖音の存在する方言と存在しない方言があるなど、蔵文との対応は方言間でばらばらである。

6.1.5 前鼻音を含む子音連続

Babzo 方言の前鼻音を含む子音連続は、前鼻音要素に後続する子音に無声有気音と有声音のほかは無声無気音もまた見られる。藏文の対応関係から見ると、無声無気音に先行する前鼻音は有声音字に m, ' が前接字となる例に対応関係が見られる。たとえば、^hʧa dzu 「金沙江」 ('bri chu), ^htʃuʃ ta 「ブーツ」 ('gyug rta), ^hpuʃ 「吹く」 ('bud) などのようである。中には ^htaʃ 「境界線」 (mtha') のように、基字が有気音のものもある。

前鼻音が先行する無声無気音は、時に完全有声化した前鼻音+有声音として現れる。たとえば、^htsu yu / ^hdzu yu 「指」 (mdzu gu) などの例がある。

以上に示したような無声無気閉鎖/破擦音に先行する前鼻音を伴う形式は他の方言では確認されにくく、Babzo 方言を特徴づける要素の1つである。

6.2 母音+音節末形式

基本的な対応関係は以下のように示すことができる¹⁰⁾。

V\C	#/'	b	d	g	m	n	ng	r	l	s
a	a	uʃ	eʃ	aʃ / eʃ	ɔ:	e:	ɔ:	a:	ɛ:	ɛ:
i	ə	ʔ	iʃ	iʃ	i:	i: / e:	e:	i:	i:	i:
u	u	uʃ	uʃ	uʃ	o:	u:	u:	u:	i:	i:
e	e	əʃ	eʃ	eʃ	ʔ	e:	e:	e:	e:	e:
o	o	oʃ	eʃ	oʃ	o:	ø:	o:	o:	o:	ø:

以上のうち、末子音 b に対応する ʔ は特に長母音化、時に wʃ ともなり、末子音 g に対応する ʃ は多く ʔ になる傾向がある。また末子音が鼻音であるすべての例で先行母音が鼻母音化することもあり、特に複音節語の第1音節に見られやすい。

藏文 ang 対応形式は、たとえば gwa 「1 (単位の)」(藏文 gang) のように、わたり音 /w/ を含む例も見られる。同様に、藏文 as, ing 対応形式にも、たとえば ^hnje: 「青稞」(藏文 nas), ^hnje: 「古」(藏文 rmying) のように、わたり音 /j/ を含む例がある。

以上のようにまとめたのは1つの主要な傾向に過ぎず、異なる例も多々見受けられる。このような対応の傾向は、細部には差はあるが孫天心 (2003) の記述にある Chosrje 方言とよく似た対応関係を見せている。特に末尾鼻音の脱落と長母音化は同一の傾向である。

アムドチベット語は末子音が藏文形式と対応して数種類存在するため、Babzo 方言の特徴とは典型的に合致しない。ヒャルチベット語の中でも末尾鼻音の脱落傾向は巴西区の方に顕著に見られるが、藏文末子音 g に ʃ が対応するのは共通に見られる (鈴木 (2005b), Suzuki (2005a) など)。

7. 語形式による Babzo 方言の特徴づけ

藏文との対応関係による方言の特徴づけは、チベット語の方言の中による典型的特徴を明らかにするものである。これに対し、語形式による方言の特徴づけは、方言間の種類の類似を越

10) 藏文再添後字 s は口語形式に明確な対応関係を得られないため、以下の表では省略する。

えて、地域的な側面から分析することになる。

7.1 特徴的な音素を含む語形式

Babzo 方言の音体系を見ると、唇歯有声摩擦音、歯茎側面有声摩擦音および口蓋垂閉鎖音に特に注目する必要がある。

7.1.1 唇歯有声摩擦音 /v/ の例

唇歯有声摩擦音は多くの例で前気音を伴って現れるが、かなりの例で蔵文との一定の対応関係を見せる。

1. 蔵文 db 対応形式

^hvɔ: tɕ^ha 「権力」 (*dbang cha*) など

2. 蔵文 sb 対応形式

^hva ^hmu 「爪」 (*sba rmo*), ri vja ^hto zi 「亀」 (*rus sbal*), ^hvi: ja 「蛙」 (*sbal ba*), ^hvuu ^htɕ^hɛ: 「シンバル」 (*sbug chal*), ^hvi: 「隠す」 (*sbas*) など

3. 第2音節に来る b

^htɕa: vo 「王」 (*rgyal bo*) など

例外的に ^hva 「黒テント¹¹⁾」 (*sbra*) などにも見られる。

以上の対応関係は Chosrje 方言とよく一致する。一方で、これらは一部のアムドチベット語における両唇接近音を含む /^hw, ^hw/ との対応関係が見える例もある。たとえば rNgawa (阿壩県中阿壩) 方言では「亀」 ruu^hwa, ^hwɛ wa 「蛙」, ^hwa 「黒テント」などのようである。ただし蔵文 db 対応形式は異なって、たとえば ^hɕɔŋ 「権力」のようである。

7.1.2 歯茎側面有声摩擦音 /ɬ/ の例

調査した語彙の中では、以下のような語に歯茎側面有声摩擦音が見られる。

^hɕa 「太もも」, ^hɕe: te 「編む」, k^ha lo: ^hɕɔ 「味わう」, p^huu ^hɕe 「間違う」, mɔ ^hɕɔ 「(牛が) 鳴く」, ja ra ɕa 「取る」

チベット語方言の中でこの音素を持つ方言は極めて少なく、筆者の知る限り Babzo 方言とともに Askyirong 方言に見られるのみである。Askyirong 方言の例は以下のようである。

^hdza ɕa 「世界」, ^hna ^hɕa 「赤ん坊」, ɕɔ ze 「とさか」, ^htɕoʔ ɕo: 「トイレ」, so ^hɕa 「竹笛」, ɕuu 「竜神」, ɕo 「方法」, ɕɔ: 「うし年」, ɕo m^hba 「湿った」, ^hɕa lo 「愚かな」, ^hɕa wa 「編む」, ^hkor ɕoʔ 「翻す」, nɛ gi ^hgo ɕo 「(頭に) かぶる」, ^htɕɛɕ pa 「言う」, yuuɕ 「与える」, ɕo m^hbo tɕ^he 「温める」

これらの例の中で両方言間で共通しているのは「編む」の ^hɕe: te と ^hɕa wa に限られる。また、

11) ヤクの毛で作られたテントのことである。

Askyirong 方言の例を見ると、藏文足字 l をもつ語が /ɬ/ に対応するように見える。たとえば、「世界」「ときか」「竹笛」「竜神」「うし年」「湿った」「編む」の /ɬ/ に対応するであろう藏文の形式はそれぞれ gl, zl, gl, kl, gl, rl, sl である。これは Babzo 方言の例のいくつかにも当てはまり、「太もも」は *brla*, 「編む」は *sla*, 「取る」は *ja ra len* といったように、l を含む藏文形式とある程度の関連が指摘できる。

Babzo 方言と Askyirong 方言にのみ見られるということで、これらの方言の系統的近さと関連させて考えることができるかもしれないが、その一方で Chosrje 方言には見られない。また、現れる語が一定していない点も問題となるが、極めて限定的な地域に起こった変化であると考えるのは妥当であろう。

7.1.3 口蓋垂閉鎖音の例

調査した語彙の中では、以下のような語に口蓋垂閉鎖音が見られる。

1. /qʰ/ を含むもの

qʰa: 「雪」、qʰa da 「からす」、qʰa ʰŋo tə 「密な」、qʰa ʰde 「苦い」、qʰa ɕʰaʔ 「からい」、^otsʰa qʰa de 「塩辛い」

2. /q/ を含むもの

quʔ 「穴が開く」、tə quʔ ʰtɕʰwa 「穴を開ける」、qa: ru: de rə 「暗くなる」、qə 「刺繍する」

3. /g/ を含むもの

sʰə^NGe 「獅子」のみ

口蓋垂閉鎖音は、確認できる限り巴西区その他の方言には見られない要素であるが、その周辺で話されるアムドチベット語とヒャルチベット語に見られるものである（孫宏開・王賢海 (1987), 華侃・尕藏他 (1997), 華侃 主編 (2002), Sun (2003b), 鈴木・イエシエムツォ (2006) など)。ただし、/g/ は Babzo 方言にのみ見られる。

たとえば、以下のように見られる。文献を指定していないものは筆者の一次資料による。

1. sKyangtshang (松潘県山巴) 方言

qʰa: / qʰa wa 「雪」、qʰa ʰde 「苦い」、qʰa ʰɕa: 「からい」など

2. Thangskya (松潘県十里大屯) 方言

qʰā: 「雪」、qʰa ŋo 「顔」、qʰa ya 「牛乳の膜」、qo zē 「衣服」、qu ŋa 「襟」、qʰa ja 「ふた」、mə^hqa 「偽の」、qʰa ʰde 「苦い」、qʰa ɕʰa 「からい」、^otsʰa qʰa 「塩辛い」、ʔā nə^hqa: 「手に入れる」など

3. Zhongu 方言 (松潘県熱務溝) 方言 (Sun (2003b) による¹²⁾)

qʰa 「雪」、qʰe 「苦い」、qenə 「フック」、qo 「減る」など

12) Sun (2003b: 777) の説明によると、同論文の /e/ と /a/ という表記はそれぞれ筆者の /e/ と /a/ に相当すると考えられる。

4. rNgawa 方言 (鈴木・イエシエムツォ (2006) による)

q^ha lut 「痰」, q^ha no 「荷駄獣」, q^ha ta 「からす」, qe mo 「濃い」 など

5. dMarthang 方言 (紅原県龍壤) 方言

q^həŋ 「雪」, ^pt^haq qa 「肩」 など

以上の例を見ると、現在では口蓋垂閉鎖音アムドチベット語よりもヒャルチベット語に多く見られるといえる¹³⁾。その中でも、口蓋垂閉鎖音は「雪」「苦い」「からい」といった語義に現れる方言が複数見られることが分かり、これらはこの地域において共通する特徴であるといえるだろう。

7.2 語形式自体の特殊性

口語形式の中には、漢語などからの明確に借用語と分かるものを除いても、対応する蔵文形式が不明であるものが含まれている。Babzo 方言において、たとえば名詞についていくつか指摘すると、以下のようなものが挙げられる。

ⁱça ts^he 「虹」

k^hü^mba 「雹」

tswa ra 「尻」

°go: di 「子ぶた」

ʔa lu 「猫」

nā lo 「葉」

qo: mə 「レンガ」

k^ha: 「壁」

以上の例の中には、近隣の方言にも共通して見られるものもある。たとえば、巴西区の方言に見られる形式と近いものとして、「子ぶた」は Askyirong 方言 go qi:ʔ, 「壁」は Askyirong 方言 k^he: となっている。「虹」は Phyuḡtsi (九寨溝樹正) 方言 ʔa^htsi: で、「虹」の蔵文形式 ʔa' と口語における対応音との類推から、実際には存在しない蔵文形式であるが *ʔzha' といい形式に由来を持つように見える¹⁴⁾。「猫」が ʔa と lu という 2 つの音節から構成される語形式をもつのはヒャルチベット語に共通し、アムドチベット語では rNgawa 方言では lu lu といった形式が見られる。「葉」の形式は sKyangtshang 方言 na lo など、松潘県の方言における形式に酷似する。

以上のように、蔵文よりもむしろ地域的な口語上の特徴として共通性を見出すことができるものもあるが、一方で Babzo 方言以外に見出せない形式もある。このような例はさらに多くの資料を収集して分析を試みる必要があるだろう。

13) ただし孫宏開・王賢海 (1987) の報告する阿壩州のアムドチベット語にはより多くの例について口蓋垂閉鎖音を記録していることから、口蓋垂閉鎖音は徐々に摩滅しておそらく軟口蓋閉鎖音に合流しているといえ、「アムドチベット語よりもヒャルチベット語の方が口蓋垂閉鎖音を保持している」というほうが適切であろう。

14) 実際蔵文 ʔ と zh は、動詞の形態変化において交替現象が見られる (たとえば「入る」: ʔjug (現在・未来) / zhugs (過去・命令) など) ため、決して異なる対応関係を示す例ではない。

地理的関連から見た類似性について、包座郷は巴西区の中でも最南端に位置し、松潘県や九寨溝県のチベット人との交流も他の巴西区の郷よりも多い。よって、巴西区の諸方言の特徴とともに松潘県や九寨溝県のチベット語の特徴を見せるということには、地理的要因が関わっている可能性が高いと判断できる。

8. まとめ

Babzo 方言は、系統的に極めて近いとされる Askyirong 方言や Chosrje 方言と多くの、かつチベット語方言の中でも特徴的な要素を共有している一方で、現段階では Babzo 方言に限って見られる特徴も明らかとなった。音声方面を考えると、巴西区の母語話者の認識にもあり、Babzo 方言が異なる音声特徴を有していることを具体的に示すことができた。

Babzo 方言などの話される巴西区は、歴史的には松潘の 2 大構成地域である潘州の領域にちょうど位置する¹⁵⁾。このことから、土着のチベット人はアムドの牧畜民とは異なることが推測される。現在同地で用いられる言語はチベット語の 1 方言であることは確かであるが、本稿の分析で明らかになった具体的言語特徴を見ても、アムドチベット語ではないことが確かめられたといえる。

【付記】

筆者による現地調査については、平成 16-18 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (S) 「チベット文化圏における言語基層の解明」(研究代表者：長野泰彦、課題番号 16102001) の援助を受けている。

参 考 文 献

- 鈴木博之 (2005a) 「チベット語音節構造の研究」『アジア・アフリカ言語文化研究』第 69 号 1-23
 ——— (2005b) 「チベット語松潘・九寨溝 [Sharkhog] 方言の超分節音素」『アジア・アフリカ文法研究』第 33 号 1-37
 ——— (2006) 《九香線上的藏語方言對比研究》第 4 屆兩岸三地藏緬語族語言學學術專題討論會發表論文
 鈴木博之・イエシェムツォ [Ye-shes-mtsho] (2006) 「チベット語中阿壩 [rNgawa] 方言の音声分析」『アジア・アフリカの言語と言語学』第 1 号 59-88
 西田龍雄・孫 宏開 (1990) 『白馬譯語の研究 白馬語の構造と系統』京都：松香堂
 Nagano, Yasuhiko (1980) *Amdo Sherpa Dialect: A Material for Tibetan Dialectology*; Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa
 Sun, Jackson T.-S. (1986) *Aspects of the Phonology of Amdo Tibetan: nDzorge Śæme X̣ra Dialect*, Tokyo: Institute for the Study of Languages and Cultures of Asia and Africa
 ——— (2003a) Variegated tonal developments in Tibetan, in : Randy LaPolla et al. (eds.) *Language Variation: Papers on variation and change in the Sinosphere and in the Indosphere in honour of James A. Matisoff*, 35-51
 ——— (2003b) Phonological Profile of Zhongu: A New Tibetan Dialect of Northern Sichuan, in : *Language and Linguistics* 4.4, 769-836
 Suzuki, Hiroyuki (2005a) *Dialectological particularity of A-skyid-rong [Axirong] Tibetan—special reference to*

15) 中でも「包座」の名は、漢字は違えど清代の地方誌などの文献にも見える (龔蔭 1992: 202-203)。また、言語学的な文献資料である丁種本《西番譯語》〈川一〉(《松潘譯語》)の序文にも記載される(西田・孫 1990: 10) など、包座は歴史ある村落である。

Songpan and Aba Tibetan— [阿西茸藏語的方言特徵—兼述松潘, 阿壩藏話], unpublished manuscript presented at 38th ICSTLL (Xiamen)

- (2005b) Einige Bemerkungen über den Ursprung des *creaky* Tons im Tibetischen von Sharkhog [Songpan-Jiuzhaigou], in: *Kyoto University Linguistic Research* 24, 45–57
- 龔 蔭 (1992) 《中国土司制度》昆明：雲南民族出版社
- 華 侃 主編 (2002) 《藏語安多方言詞匯》蘭州：甘肅民族出版社
- 華 侃・尕藏他 [sKal-bzang-thar] (1997) 〈藏語松潘話的音系和語音的歷史演變〉《中国藏學》第 2 期 131–150
- 《松潘県誌》編纂委員會編 (1998) 《松潘県誌》北京：民族出版社
- 孫 宏開・王 賢海 (1987) 〈阿壩藏語語音中的几个問題〉《民族語文》第 2 期 12–21
- 孫 天心 (2003) 〈求吉藏語的語音特徵〉《民族語文》第 6 期 1–6

原稿受領日—2007年3月27日

掲載決定日—2007年7月25日